

東京都

令和5年度 年間授業計画

教 公民 科 目：現代社会 単位数： 3 単位
 対象学年 第3学年 1組～7組
 教科担当 (1組～6組：高津) (7組：宇佐美)
 使用教科 高等学校改訂版 新現代社会(第一学習社)
 使用教材 本質が見えてくる 新版 最新現代社会資料集2023(第一学習社)

	指導内容	現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	ガイダンス 私たちの生きる社会	ガイダンスを行う 現代社会の諸課題(環境と私たちの生活、資源・エネルギー問題と私たちの生活、科学技術の発達と私たちの生命、高度情報社会と私たちの生活など)を通して、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる。現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察させる。	定期考査・課題等	12
	地方自治と住民の福祉	地方自治体のことを考察させ理解させる。地方自治と政治と生活との関連について考察させる。		
	選挙生徒の現状と課題 ・世論の形成と政治参加	選挙制度の現状と課題について理解させる。 国家の行為と国民の関係性、政党政治と選挙、行政の民主化、世論とマスコミュニケーション、圧力団体や住民運動、間接民主政治、世論の形成の意義などについて考察し理解させる。間接民主政治について理解させる。現代の民主政治と政治参加の意義、重要性について考察させる。		
5月	青年期と自己の形成 ・青年期とは ・青年期を充実させるために ・伝統や文化との関り・祭りと年中行事 ・社会とかかわり・私たちの生きがい	青年期の知識や意義を理解させる。 自己実現、職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させる。 現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。	定期考査・課題等	9
	個人の尊重と法の支配 ・個人と国家 ・法の支配 ・基本的人権の保障	個人の尊重について理解させる。個人の尊重原理が、人々が互いに協力して社会生活を行う上で前提となる条件であって、基本的人権の保障や法の支配の基礎であるとともに、民主政治の目標であることについて理解させる。日本国憲法と関連させながら、基本的人権の保障に関する理解を深めさせる。法の支配と法や規範の意義、役割について理解させる。		
	・世界の政治体制 ・日本国憲法の基本原理	各国の政治文化を背景にして様々な政治体制があることを理解させる日本国憲法の基本原理について理解させる。日本国憲法の制定までの歴史について理解させる。		
	・平和主義と日本の安全保障 ・冷戦終結後の防衛問題	日本国憲法の平和主義について理解させる。 防衛に関する基本的な事柄や、安全保障と世界の平和の維持の関連について考察させ理解させる。		
	中間考査			
6月	平等に生きる権利 平等権	平等権について理解させる。人間は、多様な価値観や考え方をもち尊厳を持つこと、かけがえのない人格として平等であること、他の人々の願いについても自分の場合と同様に理解し尊重することが必要であることを考察させ理解させる。暴力を否定し、差別のないよりよい社会を実現することが、他者のもつ尊厳を尊重する基本であることを認識させる。	定期考査・課題等	12
	・自由に生きる権利 自由権 ・豊かに生きる権利 社会権	自由権について理解させる。自由・権利・責任・義務の関係について考察し理解させる。権利の主張、他者の権利を認める事、他者の自由や権利を侵害しないこと、義務や責任を果たすこと自己の個性を生かすことについて考察させる。具体的な事例を通し社会権を考察し理解する。		
	・新しい人権 ・基本的人権と公共の福祉	具体的な事例を通して、新しい人権について考察し理解させる。 具体的な事例を通して公共の福祉について考察し理解する。		
	・国会の運営と権限 内閣と行政の民主化 ・裁判所と人権保障	国会を中心とする民主政治の仕組み、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国会と内閣の関係について理解させる。		

	指導内容	現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
7月	期末考査		定期考査・課題等	6
	国際政治の動向と日本の役割 ・ 国家主権と国際法 ・ 国際連合の役割と課題 ・ 第二次世界大戦後の国際社会	国際平和の維持、国際社会の諸課題の解決において国家、国際連合、国際的な機構・組織、非政府組織（NGO）、企業などの協力が大切であることを理解させる。国際平和及び国際協力や国際協調を推進していくことが国際政治の安定や世界経済の発展につながることを理解させる。具体的な事例を通して国際社会の諸課題解決するための方法を考察し理解させる。 国際的な機構・組織の重要性について考察させる。		
	・ 冷戦終結後の国際社会	冷戦終結後の国際情勢の変化や国際社会の動向を理解する。核兵器が国際社会に及ぼした影響について理解させる。国際連合を中心とする国際機構や非政府組織の軍縮への取り組みについて理解させる。 様々な人種や民族が一国内にあるいは国境を越えて存在している事実を踏まえ、人種や民族の違いが宗教や言語、国家主権などの問題と結び付いて、地域紛争や国際紛争を引き起こすことがあることについて理解させる。 文化や宗教の多様性について考察し理解を深める。経済格差など人種・民族問題の背景や原因及び近年の難民問題について考察し、人間の尊厳を重んじる立場から、それぞれの固有の文化などを尊重する寛容の態度を養う。グローバル化の進展により文化や宗教的な背景の違いを越えて共生していくために努力していく態度が必要であることを理解させる。		
9月	・ 国境と領土問題 ・ 日本の役割と私たちの生き方	領土に関することを考察させ理解させる。政府や非政府組織（NGO）による経済協力や国際的な援助の現状や課題について理解させる。国際社会における日本の政治的、経済的社会的な役割について、国際平和の推進、人類の福祉の向上という観点から、一人一人の課題として考察させる。その際、国際社会には多様な立場や考え方が存在することに気付かせるとともに、主体的に国際社会の課題について考えようとする自覚を育てることが大切である	定期考査・課題等	12
	・ 国民所得と私たちの生活	経済成長について労働力投入、資本蓄積、技術進歩などの諸要因を考察させ理解させる。資本主義経済の景気循環について理解させる。		
10月	・ 景気変動と物価の動き	景気の変動の主な要因や、政府による経済対策について、国民福祉の向上と関連させて考察し理解させる。	定期考査・課題等	12
	中間考査			
	・ 財政の仕組みと税金 ・ 日本の財政課題 ・ 金融機関の働き	政府の役割である財やサービスの提供、所得再分配、経済の安定化を近年の経済の動向と関連させ考察し理解させる。租税を中心とした公的負担の意義と必要性について理解を深めさせる。 納税者としての立場から租税について関心を高めさせる。金融の意義や役割を理解させる。金融市場の仕組み、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解させる。金融制度や資金の流れの変化を理解させる。金融の自由化の進展、直接金融の比率の高まり、近年の金融制度や資金の流れ、金融政策の変化などを理解させる。		

	指導内容	現代社会の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
11月	戦後経済の日本の歩み 技術革新の進展と産業構造の変化	重化学工業化、経済のソフト化・サービス化の進展、IT産業の発展などが技術革新に伴って展開してきたことを理解させる。グローバル化や国際分業の産業構造の変化、人々のライフスタイルなどの変化について考察させ理解させる。	定期考査・課題等	12
	・中小企業の現状と役割 ・食の安全とこれから ・雇用と労働問題	具体例を通して、中小企業の現状と役割について考察させ理解させる。食料の安定確保の方法について理解させる。近年の雇用や労働問題の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から理解させる。雇用の在り方や労働問題について、終身雇用制や年功序列制などの制度の変化、非正規社員の増加、中高年雇用や外国人労働者にかかわる問題、労働保護立法の動向、労働組合の役割、仕事と生活の調和などと関連させながら、国民福祉の向上の観点から考察させ理解させる。		
	・労働環境の整備 ・公害の防止から環境保全へ ・消費者問題と消費者主権	環境問題の事例を取り上げ、行政、個人、企業の行動について考察させ理解させる。公害防止と地球規模での環境保全には、環境への負荷を少なくすること、健全な経済発展と持続可能な社会を築くことが必要であることを理解させる。現代文明と生活様式の在り方を考察させる。契約に関する基本的な考え方について理解させる。消費者基本法や消費者契約法、消費者の権利の尊重と消費者の自立支援について理解させる。消費者主権について考察させ理解させる。		
	・社会保障と福祉社会 ・これからの社会保障	社会保障制度の現状と課題を、具体例を通して考察し理解させる。		
12月	国際経済の動向と日本の役割 ・国際分業と貿易 ・国際経済体制のあゆみ	冷戦終結後の資本等の国境を越える移動、国際的な相互依存関係の深まり、新興諸国の経済発展などによる世界経済の変容について理解させる。	定期考査・課題等	9
	・国際収支と為替相場 ・国際経済の動向	国際収支と為替相場について理解させる。経済活動が世界的な規模で自由に行われていることを具体的な事例を取り上げて理解させる。国際社会の相互依存関係の深まりや、多様な組織が協力していくことの重要性を理解させる。グローバル化の進展による具体的な事例を通して、国際社会における政治や経済の動向及び国際社会の諸問題について考察させる。		
	・進む地域的経済統合 ・発展途上国の経済と南北問題 ・国際社会のこれから	地域的経済統合の動きを具体的な事例を取り上げて理解させる。地域的経済統合が進展した背景や影響について考察させる。貿易の自由化や協定を結ぶ動きについて理解させる。南北問題や南南問題などの貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることを理解させる。先進国の経済協力の在り方について考察させる。国際社会のこれからについて考察し理解させる。		
	期末考査			
1月	民主社会に生きる倫理 ・豊かな人生を求めて ・日本の伝統的な考え方 ・近代の西洋社会にみられる考え方	ギリシャ哲学について考察させ理解する。宗教について理解させる。日本の伝統的な考え方、近代西洋思想、近代市民社会・大衆社会について考察し理解させる。	定期考査・課題等	9
	・近代市民社会から大衆社会へ ・他者とともに生きる ・豊かな社会の実現に向けて	様々な人々の生き方や哲学を通して自己の個性の発揮、他者の人格を尊重し共に協力して生きていくことの大切さを考察する。豊かな社会の実現に向けて考察する。相互信頼と相互尊重の精神をもって、他者に対して公正な配慮を行うことが重要であることについて自覚を深めさせる。		
2月	共に生きる社会を目指して	持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題（社会保障と消費税、震災から復興への道のり、人口問題と私たちの未来、その他現代社会の諸課題）を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。		12
3月				